

工ア一静電・
温風・冷風機
能付き機材仕
様

【具体的ハード面構成】

- ①簡易式エア－静電塗装装置
- ②静電・冷風・温風ユニット

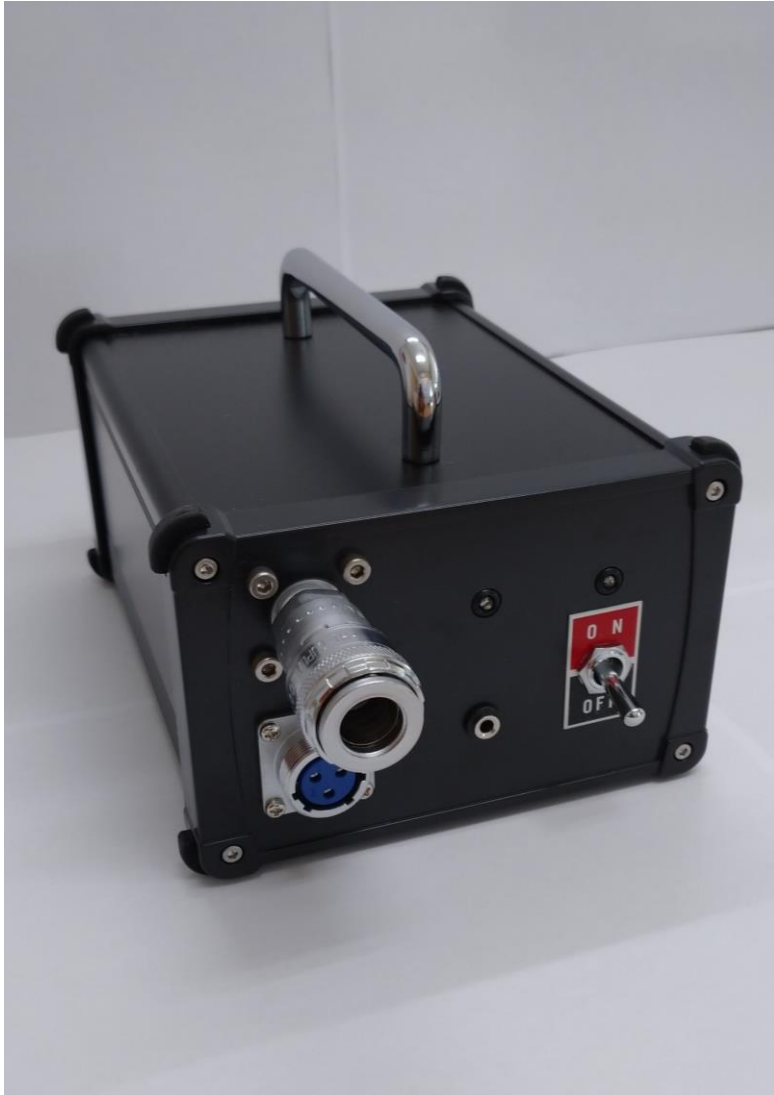
上記2点の特徴を有する塗装装置を提案します

- ②の装置は、静電発生装置と温風・冷風装置を一つのユニットに組み込み、用途別に静電発生装置と冷風装置を組み合わせた形と静電発生装置と温風装置を組み合わせた温風の3機能を合わせ持った内容で構成されています。
- ①は静電単体塗装のみの機能を持った内容です

* 静電装置の能力等は別氏資料参照、冷風能力、温風能力についても別紙資料を参照。

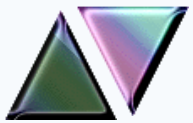
②簡易式エア—静電

塗装装置



① 静電・冷風・温風 一体型ユニット





【静電・温風ユニット仕様書】

静電・温風ユニット仕様(規格表)

型式	
入力電圧	AC100V 50/60Hz単相
出力電圧	DC1500V (約)
出力電流	MAX22 μ A
消費電力	MAX3.6W (温風時700W)
寸法	150×200×140 (突起含まず)
荷電ON/OFF機構	手元スイッチ
最高使用空気圧力	0.8MPa
(主な保護・安全機能)	
過電流流失異常対策 (ヒューズ 対応) ・ 過電流防止対策済	
●タイムオーバー検出 (無)	
●異常回避機能等 (ヒューズ 対応・ポ リスイッチ対応)	
●上限温度 (現状60℃)	
●臨界温度回避機能 (60℃電源遮断)	

トランスホーマーからの吹出エアー温度を測定可能



温度測定機材、アース確認可能
静電塗装時の車体とのアース確認可能

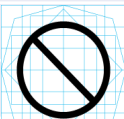
【使用に際しての安全の手引き】

安全に使用するために、事故等トラブルを防ぐために次の事を必ずお守りください。

- ・注意事項はキチンと守る。
- ・何か変な現象等が起きたら、また、故障かなと思ったら使わない。
- ・異常が起きても自己の判断で修理等を行わず、販売店または製造元まで連絡下さい

【注意事項 ①】

①本機使用中は電極に触れないで下さい。



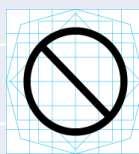
本機のスイッチ「ON」→LEDが点いている時に電極を触ると感電します。

塗装作業時(スプレー中)以外は必ず本機のスイッチを「OFF」にして下さい。

②本機から臭い、煙が出ている時は直ちに電源を切って下さい。

火災、破損の可能性がありますので使用中止して下さい。

③本機を濡らさないで下さい。又、シンナー等を掛けたり拭いたりしないで下さい。



本機は水やシンナー等で濡れた場合に感電、火災、破壊等が起こります。

濡れた場合は使用中止して電源を切り、触れないようにして下さい。

シンナーの種類によってはケースが変形することがありますので注意してください。

④本機使用時に電極を被塗装物や電気が流れる物に接触させないで下さい。

本機使用中の電極が電気の流れる物に接触した場合、スパークして火災が

起こる可能性がありますので充分注意してください。

⑤被塗装物には必ずアースを行って下さい。また、テスター等を使用して確認を行って下さい。



アースが取れていないと本来の静電塗装はできません。

【注意事項 ②】



⑥ 作業者はできるだけ静電服、静電靴の着用を行って下さい。また、セットの中に入っている帯電手袋は必ず使用してください。

静電塗装器はエアースプレーを媒体として、スプレーガンに帯電させて静電を発生させる仕組みですので、必ず帯電用手袋を使用してください

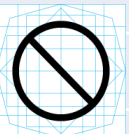


⑦ 分解、改造をしないで下さい。

本体ケース内には高電圧回路があります。感電の危険がありますので決して本体・電極の改造はしないで下さい。

本体ケースを開けると故障します、決して開封しないで下さい。

動作不良による故障が疑われる時には、速やかに販売店へ修理をご依頼下さい。



⑧ 幼児やお子様の手が届く範囲に放置しないで下さい。

本ユニットの保管場所を決めて、定められた作業者のみ使用するようして下さい。



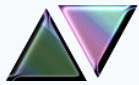
⑨ 本機には衝撃をあてる場所や、不安定な場所には置かないで下さい。

本機に衝撃を与えたり、不安定な場所に置いて落下させたりすると故障の原因となります。



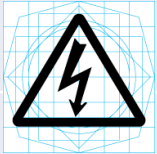
⑩ 電極ユニットを接続するコードを折ったり、傷をつけないで下さい。

コードを熱機具に近付れたり、コードの上に物を落としたり、折り曲げたりしないでください。



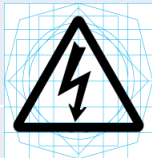
【注意事項 ③】

- ⑪ 静電塗装中にスプレーガンを作業台や床に置く場合には電源スイッチを切ってから置いて下さい。



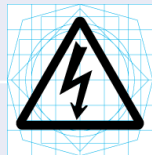
スプレーガン等が他の金属等に触れますと帯電して、素手等で触れたりすると高静電圧の為に感電等が起きますので注意してください。

- ⑫ 塗装時以外は本機のスイッチを「OFF」にするとともに



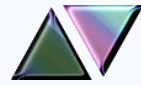
残留電気の感電を避けるため、スイッチを切ってから多少時間を置いてから素手等で触れるようにしてください。

- ⑬ 本機のスイッチが「ON」の時には素手で絶対に電極に触らないように



して下さい。また、ガンのキャップ・本体等にも素手で触らないで下さい。

又、被塗装物、塗装ブースや金属物に電極を接触させないで下さい。



【静電塗装を行うにあたっての参考資料】

静電塗装を上手に行うには次の事をご確認下さい。

①塗料の種類によって塗料の電気抵抗値(MΩ→メガオーム)

が異なります。MΩで塗着率が変わります。

②静電塗装効果で今までのエアースプレーより塗着率が高い

ので塗膜厚が付き、塗膜内のシンナー蒸発が遅くなる可能性があります。

有機系溶剤ではシンナー等はあまり早めを使用しないようにしてください。

揮発の早いシンナーを使用すると膜厚が厚くなると表面の乾燥が早くなり塗膜内

の溶剤の蒸発の蒸発がスムーズに行えず逆に本来の塗膜乾燥が遅くなり色々な

トラブルの原因となります。

水性塗料では、塗装膜厚が均一に厚くなることでNV値が安定して塗膜の

表面改質がきれいに進み静電効果の塗装膜厚の向上がプラス効果となって

現れます。